

秋季資料公開

森鷗外の手紙



↑ 特殊切手 文化人シリーズ「森鷗外」
発行:昭和 25(1951)年 7 月 9 日

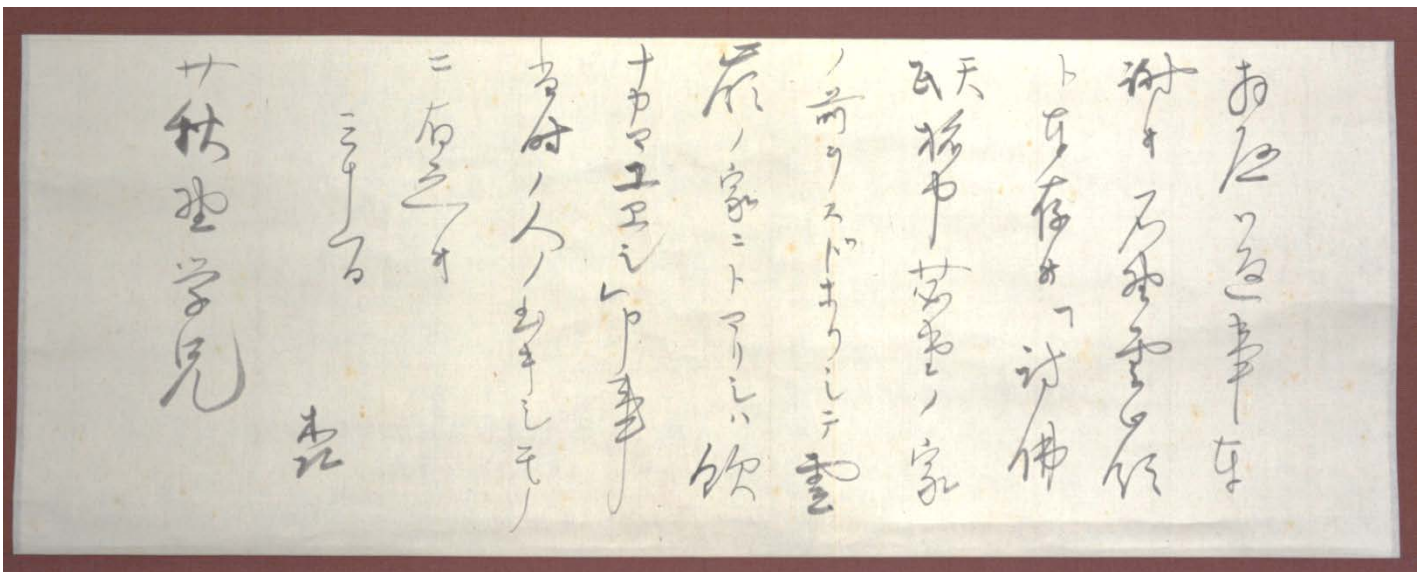
森 鷗外 小説家、評論家、軍医

本名 森林太郎

出身 島根県津和野町

文久 2(1862)年-大正 11(1922)年

東京大学医学部を卒業後、陸軍軍医となり陸軍軍医総監となる。文学を深く好み、世界の古典にも明るく、文学雑誌『しがらみ草紙』創刊したほか、小説、戯曲、伝記、評論など幅広い分野で才能を発揮。著書に『舞姫』『阿部一族』『山椒大夫』など。



拝啓御返事奉

謝候石野雲嶺

ト奉存候「訪佛

天民旅中苾堂ノ家

ノ前ヲストホリシテ雲

嶺ノ家ニトマリシハ飲

ナカマユエ也」申事

當時ノ人ノ書キシモノ

ニ有之候

三十一日

これは、大正5(1916)年に明治の文豪、森鷗外が歴史、国文学者の萩野由之(※)の質問に回答した書簡です。

この書簡は、森鷗外の短編小説『壽阿彌(じゅあみ)の手紙』に関連したもので、文中に登場する壽阿彌、天民(てんみん)、苾堂(ひつどう)、雲嶺(うんれい)は江戸時代の文人です。この文面では、「天民が旅行中に苾堂の家の前を素通りして雲嶺の家に宿泊したのは、雲嶺とは飲み仲間であり、苾堂は飲まないからだ、と当時の記録にある」と萩野に伝えています。

『壽阿彌の手紙』については、鷗外全集第一六巻に掲載されています。

(※)萩野由之(1860-1924)は明治・大正期の歴史・国文学者。研究領域は広く、明治書院発行の中等学校用教科書「中等国文読本」を落合直文、森と共に刊行。